

岡山市における学校司書の研修制度の現状と課題

岩下 夏帆

近年、学校司書を配置する学校が増加してきており、学校司書の役割が必要とされていることが伺え、今後、学校司書の研修などの取り組みの充実が大きな課題となる。岡山市は採用後の研修について、1961年より非常に早い時期から活発に行われている。

しかし、近年の岡山市の研修に関する活動については十分に明らかにされていない。そこで本研究は、岡山県における学校司書の研修制度の現状と課題について明らかにし、今後の学校司書の研修制度の在り方について考察することを目的とした。

調査方法については、まず文献調査は、日本における学校司書の現状と課題と、岡山市における学校司書の現状について明らかにするために行った。日本における学校司書の現状と課題について文献調査の対象は、司書教諭に関して学校図書館法が改正された1997年以降の文献、報告書及び答申である。聞き取り調査は、岡山市の学校司書に対する研修の実態把握・課題の検討のために行った。調査対象者は、研修において主催者側である岡山市教育研修研究センターと岡山市学校司書部会である。また、研修に参加した岡山市の公立小・中学校司書に対しても聞き取り調査を行った。

調査結果、今後、国は学校司書の研修に関して環境整備、積極的な支援を行い、各都道府県教育委員会は、研修制度の維持・整備などそれぞれの地区に合わせた活動を行う必要があることが明らかになった。学校図書館の「運営・管理」に関する役割と児童生徒に対する「教育」に関する役割についての知識・技能を習得できる研修を実施する必要がある。

次に、岡山市の研修については、岡山市教育研修研究センターと岡山市学校司書部会が協力関係を構築しており、体系的な研修体制が整備されていると言えた。研修後の効果の把握も行い、さらに、現場で働く学校司書が中心となって研修を作っていることが明らかになった。また、実際に研修を受けた学校司書の回答でも、研修内容は学校司書自らが学ぶべき内容を決め研修を受けていることから、自主的な研修を行っていることが明らかになった。研修を受ける際の不便な点として、移動距離と研修参加時の図書館管理が挙げられた。また、研修を受けた効果として、情報共有、新たな取り組みを行えること、それらに対する児童生徒らの反応から自身の意識向上につながる事が挙げられた。今後、体制維持と教員職との合同研修、司書教諭の役割を果たせる環境整備が希望として挙げられた。

以上の結果から、岡山市の研修は、体系的な研修、受講者のことをよく考えた現場に近い研修、自ら学びたい内容決めを学び深めていく自主的な研修であることから、今後、他地方公共団体や国における研修制度の整備のために、組織間や現場で働く学校司書らとの協力関係の構築が最も重要な要因であると言える。

(指導教員 平久江祐司)